

経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けられる方へ

仙台赤十字病院泌尿器科

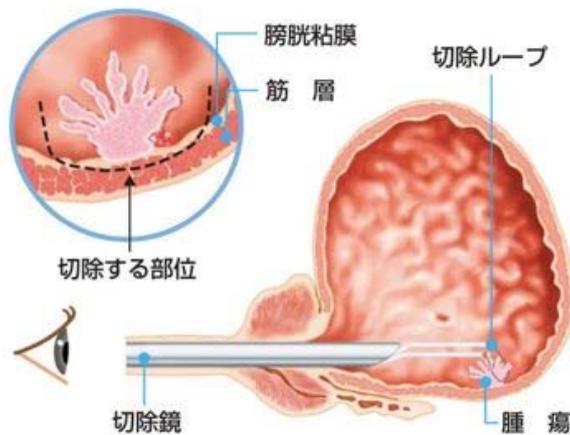
① 病名：膀胱腫瘍（膀胱癌）

- ・ **膀胱腫瘍とは**：膀胱にできる腫瘍はほとんどが悪性腫瘍（膀胱癌）です。原因として最も可能性が高いものは喫煙です。その他、職業や炎症、抗がん剤などの薬物と関連して発生する癌もあります。喫煙習慣のある人は、ない人に比較して2～4倍程度膀胱癌になりやすいといわれています。
- ・ 膀胱の粘膜は、腎盂と尿管の粘膜と同じ尿路上皮からできています。尿路上皮（腎盂、尿管、膀胱）にできる腫瘍（癌）は多発することが特徴です。多発の形式には空間的多発性、時間的多発性（再発）があります。

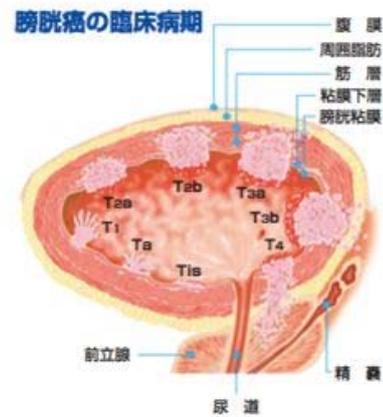
② 手術時間：30分から2時間程度

- ## ③ 麻酔法：全身麻酔（あるいは腰椎麻酔）で行います。腫瘍の場所によっては閉鎖神経ブロックを併用して行います。

- ## ④ 手術の目的・方法：手術の目的は、尿道から内視鏡下を挿入し、膀胱内の腫瘍を切除することと、切除したものを検査に提出して膀胱癌の組織型・悪性度や深達度を調べることです。この手術は内視鏡（手術用切除鏡）を尿道口から挿入し、電気メスによって腫瘍を切除します。手術時間は腫瘍の広がりにより30分から2時間くらいです。切除した組織は病理検査して、その後の診療方針を決めることとなります。一般に粘膜内にとどまっている腫瘍は内視鏡的に切除可能とされていますが、腫瘍が筋層内にまで入り込んでいるものは膀胱を摘出すること（膀胱全摘術）が必要とされています。経尿道的膀胱腫瘍切除術は膀胱癌の診断を兼ねた初期治療です。



TUR-BTのイラスト



膀胱がんの臨床病期・T分類について

⑤ 手術に伴う危険性、合併症：

1) 膀胱穿孔；

膀胱壁に穴が開いてしまうことです。閉鎖神経反射や腫瘍が深く浸潤している場合に深く削りすぎると起こります。小さい穴であれば1週間程度カテーテルを入れておけば自然に穴はふさがります。しかし、時には途中で手術を終了せざるを得なかったり、お腹に切開を入れて穴から漏れた液や尿を排出する管を入れたりすることがあります。

2) 血尿；術後軽度の血尿がみられます。程度が強い場合には手術室で止血を行わなければならないこともあります。高度の貧血となった場合には輸血が必要となることがあります。

3) 後出血；術後2週間くらいして突然血尿が生じることがあります。これはかさぶたがとれて出血したもので、通常2～3日で消失しますが、濃い血尿が続く時には来院して下さい。

4) 尿路感染症、精巣上体炎；術中より抗生剤を予防投与して対処します。

5) 尿道狭窄；手術中の尿道への機械的刺激や炎症により生じることがあります。尿道の拡張処置をおこなわなければならないことがあります。

6) 膀胱腫瘍の再発；2年以内に半数以上の患者さんに起こります。外来で3ヶ月ごとに膀胱鏡検査を行う予定です。

7) 深部静脈血栓症；長時間碎石位でいるため、下肢静脈の還流が悪くなり血液が固まりやすくなる可能性があります。その固まったもの(血栓)が肺に飛んで、詰まってしまうことがあります。肺梗塞の状態ですが、発症するとかなり危険な状態になることがあります。その予防のため、術中、術後に弾性ストッキングまたはフットポンプを着用して危険性を少なくしています。

8) その他；予測し得ないことがもし生じた場合には早急に対応致します。

⑥ 手術後の経過について：

手術当日は、ベッド上安静になります。

カテーテルは 3-5 日目に抜去します。カテーテル抜去後、初めは頻尿、排尿痛、尿失禁、パッドに血がつくなどの症状が出ますが、徐々に改善してきます。水分を多く飲んでください（水分制限されている人を除き）。

⑦ 再発予防のための抗癌剤膀胱内注入療法について：

膀胱がんは、再発しやすい癌です。再発予防のために、手術直後に抗癌剤を膀胱内に

注入すると再発予防に役立つといわれています。

手術翌日に尿道留置カテーテルから、抗癌剤（テラルビシン）を膀胱内に注入します。

30 分から 1 時間くらい抗癌剤を貯留したままにした後に、排出します。

副作用は痛み、頻尿、血尿などの膀胱刺激症状が出ることがあります。